

## 「令和8年度病害虫発生予報第2号」の発表について

○今後の主要な病害虫の発生予察情報（発生予報）については次のとおりです。

- ・ 水稲では、イネミズゾウムシの発生が、北東北及び北陸の一部の地域で多くなると予想されています。
- ・ 麦では、赤かび病の発生が、北海道、北関東、東海、近畿、中国及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。
- ・ 野菜では、トマトのコナジラミ類の発生が、北関東、四国及び九州の一部の地域で多くなると予想されています。また、いちごのハダニ類の発生が、北陸及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。
- ・ 果樹では、果樹カメムシ類の発生が、北陸、近畿、中国、四国及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。また、なしの黒星病の発生が、東海及び中国の一部の地域で多くなると予想されています。

この他、なしのシンクイムシ類等、地域によっては多くなると予想されている病害虫があるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に適期の防除を実施してください。

### 国の発生予察情報について

国は都道府県の協力の下、植物防疫法（昭和25年法律第151号）に基づき、有害動植物の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、有害動植物の発生調査の結果等を分析し、有害動植物の発生予察及び防除対策に係る情報（発生予察情報）を提供しています。

本予報は、都道府県が提供する発生予察情報を取りまとめた情報になりますので、地域における情報の詳細は、都道府県病害虫防除所のホームページ等を参照してください。

- ・ 国の病害虫発生予察情報及び都道府県病害虫防除所のリンク  
参照URL: <https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/index.html>

### 総合防除の実践

温暖化等の気候変動や薬剤抵抗性の発達等を背景に、病害虫・雑草への対応が年々難しくなっています。このため、消費者に支持される食料の安定的な供給が確保されるよう、「予防・予察」に重点を置いた総合防除によって、病害虫・雑草が発生及び増加しづらい生産環境を整え、持続的かつ効果的な防除を適時適切に実施し、病害虫・雑草のまん延防止及び農作物への損害の発生を軽減することが重要です。

- ・ 総合防除実践ガイドライン  
参照URL: [https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g\\_ipm/attach/pdf/index-34.pdf](https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g_ipm/attach/pdf/index-34.pdf)
- ・ 総合防除実践マニュアル  
参照URL: [https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g\\_ipm/attach/pdf/index-44.pdf](https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g_ipm/attach/pdf/index-44.pdf)

## 気象

---

気象庁の向こう1か月の予報（5月7日付け）では、気温は、北日本、東日本及び西日本で高く、沖縄・奄美で平年並か高いと予想されています。降水量は、全国でほぼ平年並と予想されています。

- ・気象庁ホームページ

参照URL: <https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/>  
(外部リンク)

水稻で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病虫害及びその地域

作物名	病虫害名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
水稻	イネミズゾウムシ	北東北、北陸	東海、近畿、中国、九州
	いもち病	北東北	北九州
	苗立枯病	北東北	南東北

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

- ・**いもち病**の発生が、北東北の一部の地域で多くなると予想されています。本病は種子伝染性病害のため、発生が昨年多かった地域では、種子消毒を的確に実施し、健全な苗の育成に努めてください。薬剤感受性の低下がみられる場合があるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、効果の高い薬剤を選定し種子消毒を実施してください。また、塩水選や温湯消毒といった物理的防除を実施する場合には、消毒効果を確実に得られるように、病虫害防除所等が示す手順・方法に沿って適切に実施してください。

- ・**縞葉枯病**は、ヒメトビウンカによって媒介される縞葉枯病ウイルスが原因であり、経卵伝染するため、本虫を対象とした防除を実施することが重要です。本ウイルスを保毒している本虫の割合が高まっている地域では、育苗箱施用剤による防除の実施についても検討してください。

- ・**イネミズゾウムシ**の発生が、北東北及び北陸の一部の地域で多くなると予想されています。気温が高い日が続くと成虫の本田への侵入時期が早まるおそれがあります。ほ場を注意深く観察し、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、被害株の早期発見に努めてください。育苗箱施用を実施していない場合は、発生に注意してください。

- ・**トビイロウンカ**は、その年の気象条件や飛来量によっては大きな被害を引き起こします。本虫による被害の発生が懸念される地域では、収量の確保に向け効果の高い育苗箱施用剤による防除の実施についても検討してください。

- ・**スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)** は、昨冬の気温が全国的に高かったことから、本貝の発生地域では、多くの個体が越冬しているおそれがあります。今春の被害を抑えるため、移植前に取水口・排水口にネットや金網を設置し、本貝の侵入を防止するとともに、水田内の発生が多い場合には、植代前の石灰窒素の散布の実施を検討してください。また、移植時は薬剤散布を実施し、移植後は水深を4cm(理想は1cm)以下に維持する浅水管理を実施してください。

本貝は、農機具・機械に付着した泥とともに他のほ場へ拡散するおそれがあります。そのため、発生ほ場で農機具・機械を使用した後は泥をよく落としてから移動させてください。なお、一旦定着した本貝を根絶することは困難なこと、また周辺の水田にも悪影響が及ぶことから、除草目的であっても、未発生地域や被害防止に取り組む地域での本貝の放飼は行わないでください。

農林水産省では、被害防止対策に関するマニュアルや動画などをホームページに掲載しています。また、農研機構植物防疫研究部門を代表機関とするコンソーシアムが、防除技術、リスク地図等を紹介する「スクミリンゴガイの防除支援マニュアル」を下記URLに公開しています。

- ・スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ) の被害防止対策について  
参照URL: <https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/sukumi.html>
- ・スクミリンゴガイの防除支援マニュアル  
参照URL: <https://ml-wiki.sys.affrc.go.jp/applesnail/start>

## 麦

麦で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病虫害及びその地域

作物名	病虫害名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
麦	赤かび病	北海道、北関東、東海、近畿、中国、北九州	

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

・赤かび病の発生が、北海道、北関東、東海、近畿、中国及び北九州の一部の地域で多くなると予想されており、栃木県、埼玉県、静岡県及び山口県等から注意報が発表されています。これから開花が始まる地域では、麦類への赤かび病菌の感染及び赤かび病の発生を未然に防ぐため、発生予察情報等を参考に、麦類の種類に応じて、以下の生育時期に最初の防除を実施してください。さらに、地域の気象条件、中長期の天気予報、過去の赤かび病発生状況、品種の赤かび病に対する抵抗性の程度等を考慮し、必要に応じて開花10日後から20日後までを目安に追加の防除を実施してください。防除適期に降雨が続く場合には、降雨の合間を利用して確実に防除を実施してください。なお、刈り遅れにより麦類が降雨に当たると、発芽粒、くされ粒等の発生による品質低下だけでなく、赤かび病の進展やかび毒の産生を助長する原因となるため、適期を逃さず収穫してください。

麦の種類	最初の防除を行う生育時期
小麦	開花を始めた時期から開花最盛期（1穂につき数花開花をしているものが、全穂数の40～50%に達する時期）までの間（北海道においては開花始期）
二条大麦	穂揃い期（全茎の80～90%が出穂した日）の10日後頃の葯殻抽出期
六条大麦	開花を始めた時期から開花最盛期までの間

・麦類のデオキシニバレノール、ニバレノール汚染の予防及び低減のための指針

参照URL：[https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk\\_analysis/priority/kabidoku/index.html#mugi](https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/index.html#mugi)

野菜・花きで各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及びその地域

作物名	病害虫名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
いちご	アザミウマ類		関東、東海、四国
	アブラムシ類		東海、中国、四国、北九州
	ハダニ類	北陸、北九州	北関東、甲信、東海、四国
	うどんこ病	北関東	東海、北九州
きゅうり	アザミウマ類		関東、近畿、四国、北九州
	コナジラミ類	四国、南九州	近畿、北九州
	うどんこ病	北関東	南九州
	べと病	四国、南九州	関東、東海
	褐斑病	北九州	南九州
たまねぎ	アザミウマ類	北陸、四国	北九州
トマト	コナジラミ類	北関東、四国、九州	南関東、近畿、中国
	うどんこ病	東海、南九州	北関東
	すすかび病	四国	中国、南九州
	黄化葉巻病	四国	
	灰色かび病	東海、四国	北関東、南九州
なす	アザミウマ類	東海	近畿、四国
	うどんこ病	四国	近畿
ねぎ	アザミウマ類	関東、北陸	近畿、北九州
ピーマン	うどんこ病	北関東、四国、南九州	

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

### コナジラミ類・ハダニ類

・トマトではコナジラミ類の発生が、北関東、四国及び九州の一部の地域で、いちごではハダニ類の発生が、北陸及び北九州で多くなると予想されています。これらの微小害虫は、作物を加害するほか、多くの病原ウイルスを媒介することが知られています。発生密度が高くなってからは防除が困難となるため、ほ場の観察をきめ細かく行うとともに、発生初期に防除を実施してください。なお、これらの微小害虫は、薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、効果の高い薬剤を適切に選定してください。

また、農薬散布に加え、発生源とならないように、作物残渣の適切な処分やほ場内及びその周辺の除草や、天敵による生物的防除等を組み合わせた防除の実施についても検討してください。

## 果樹・茶

果樹・茶で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及びその地域

作物名	病害虫名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
果樹共通	果樹カメムシ類	北陸、近畿、中国、四国、北九州	北東北、東海
かんきつ	ハダニ類	東海、北九州	四国、南九州
	かいよう病	北九州	東海、近畿
なし	アブラムシ類	東海	南関東
	シンクイムシ類	北陸	北関東、東海、中国、四国
	ハマキムシ類	北陸	中国
	黒星病	東海、中国	北関東
もも	シンクイムシ類	東海	中国
	せん孔細菌病		東海、近畿、四国
茶	チャノミドリ ヒメヨコバイ	東海	九州

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

### 果樹共通

・**果樹カメムシ類**の発生が、北陸、近畿、中国、四国及び北九州の一部の地域で多くなることが予想されており、和歌山県、山口県及び高知県から注意報が発表されています。本虫は、山林等の越冬場所から離脱した成虫が春の気温の上昇とともに餌を求めて移動し、果樹全般を加害します。

一部の都道府県では、冬期の越冬量調査の結果、平年より多い越冬個体数が確認されており、これらの地域では特に果樹への加害を警戒する必要があります。また、気温が高く推移すると予想されている地域では、越冬した果樹カメムシ類が早期に活動を再開するおそれがありますので、園地への早期飛来に注意してください。

果樹カメムシ類の飛来状況は地域や園地により異なるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考にしつつ、園内の観察をきめ細かく行い、飛来が認められた場合は、飛来初期から防除を実施してください。本虫は薄暮期から夜間を中心に活動するため、夕方の薬剤散布が効果的です。なお、地域一斉に薬剤散布を実施すると防除効果が高まることから、発生状況等を地域で共有して、可能な場合は地域一斉の防除を実施してください。

#### ・カメムシ類の防除

参照URL: <https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/kamemusi.html#kajyukamemusirui>

### かんきつ

・**ハダニ類**の発生が、東海及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。本虫は発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、ほ場の観察をきめ細かく行い、発生初期に防除を実施してください。なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避け、効果の高い薬剤を適切に選定してください。

また、農薬散布に加え、ほ場内及びその周辺の除草や、土着天敵の保護利用による生物的防除等を組み合わせた防除の実施についても検討してください。

## なし

・シンクイムシ類の発生が、北陸の一部の地域で多くなると予想されています。不要な徒長枝を除去し、本虫による被害果が認められた場合は、果樹園外に持ち出し処分してください。ほ場の観察をきめ細やかに行い、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、効果の高い薬剤を適切に選定してください。

この他に、園地周辺を含めた交信かく乱剤の使用も効果的です。地域全体での交信かく乱剤の利用も検討してください。

・黒星病の発生が、東海及び中国の一部の地域で多くなることが予想されており、愛知県から注意報が発表されています。発病した部位は見つけ次第除去し、園外に持ち出して、適切に処分してください。薬剤感受性の低下がみられる場合があるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、薬剤防除を実施してください。

## その他（今後の発生動向に留意する病害虫）

・サツマイモ基腐病は、さつまいもの茎葉やいもに枯死・腐敗を引き起こす病害で、平成30年度に沖縄県、鹿児島県及び宮崎県において初めて確認され、その後、上記以外の都道府県においても本病の発生が確認されています。

健全種苗の確保に努め、ほ場の排水対策やほ場の見回りによる発病株の早期の抜き取り、予防的な薬剤散布の実施、農機具の洗浄等の総合的な防除対策に取り組みましょう。

本病による被害は以前と比較すると抑制されつつありますが、引き続き、防除対策を確実に講じる必要があります。本病が感染した苗や種いもに形成された胞子が風雨や湛水により移動し、周辺株へ感染します。本病の対策の基本は、病原菌を本ほに「持ち込まない」、栽培期間中に病原菌を「増やさない」、収穫後に病原菌をほ場に「残さない」対策が重要となります。

・サツマイモ基腐病の防除

参照URL：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/index.html>

・サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策

参照URL：[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html)

## 都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

令和8年4月14日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は以下のとおりです。

### 警報

発表はありません。

注) 重要な病害虫が大発生することが予測され、かつ、早急に防除措置を講ずる必要がある場合に発表します。

### 注意報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
4月14日	福岡県	麦類（小麦、大麦）	赤かび病
4月15日	滋賀県	麦類（小麦、大麦）	赤かび病
4月16日	愛知県	麦類（小麦、六条大麦）	赤かび病
4月16日	大分県	麦類	赤かび病
4月20日	岐阜県	麦類	赤かび病
4月22日	鳥取県	麦類（小麦、大麦）	赤かび病
4月22日	熊本県	麦類	赤かび病
4月23日	和歌山県	ウメ、モモ、スモモ、カキ、カンキツ、キウイフルーツ、ナシ、ブドウなど	果樹カメムシ類
4月27日	沖縄県	マンゴー	ハダニ類 (シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ)
4月27日	埼玉県	麦類	赤かび病
4月27日	宮崎県	茶	カンザワハダニ
4月30日	愛知県	ナシ	黒星病
4月30日	山口県	麦類（小麦、大麦）	赤かび病
4月30日	山口県	果樹全般（ナシ、モモ、リンゴ、ウメ、カンキツ、ビワ等）	果樹カメムシ類
4月30日	高知県	果樹全般（ウメ、モモ、スモモ、ナシ、カンキツ類、ビワ等）	果樹カメムシ類
5月1日	静岡県	麦類	赤かび病
5月8日	栃木県	麦類（二条大麦、六条大麦、小麦）	赤かび病

注) 警報を発表するほどではありませんが、重要な病害虫が多発することが予測され、かつ、早

めに防除措置を講じる必要がある場合に発表します。

## ■ 特殊報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
4月23日	千葉県	ダイコン	<i>Heterodera cruciferae</i> による ダイコンの黒色小斑点
5月1日	沖縄県	トルコギキョウ	トルコギキョウ黄化えそ病

注)各都道府県において、新たな病害虫を発見した場合及び重要な病害虫の発消長に特異な現象が認められた場合に発表します。

病害虫の生態等の生物学的情報や防除に関する情報の詳細については、各都道府県の病害虫防除所のホームページ等を参照してください。

## ■ 見慣れない病害虫被害が発生していた場合の対応

我が国未発生又は我が国の一部のみが発生している重要病害虫が、万が一国内の未発生地域に侵入した場合、国内の農業生産に重大な損害を与えたり、農産物の輸出を阻害するおそれがあります。こういった重要病害虫の侵入に伴う国内の農業生産や輸出への影響を防止するためには、国内の未発生地域への重要病害虫の侵入を早期に発見し、速やかに的確な防除を実施することが重要です。

農作物に見慣れない病害虫被害が発生していた場合には、最寄りの植物防疫所又は都道府県の病害虫防除所等にお知らせください。

- ・植物防疫所の連絡先  
参照URL:<https://www.maff.go.jp/pps/j/introduction/domestic/dsinnyuu/221121.html>
- ・都道府県の病害虫防除所の連絡先  
参照URL:<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/boujoshou.html>

## 用語解説

### (地域)

北海道：北海道

東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

北東北：青森県、岩手県、秋田県

南東北：宮城県、山形県、福島県

関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

北関東：茨城県、栃木県、群馬県

南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

甲信：山梨県、長野県

北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県

東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県

南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県

沖縄：沖縄県

### (発生量(程度))

多い(高い)：やや多いの外側10%の度数の入る幅

やや多い(やや高い)：平年並の外側20%の度数の入る幅

平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅

やや少ない(やや低い)：平年並の外側20%の度数の入る幅

少ない(低い)：やや少ないの外側10%の度数の入る幅

(平年値は過去10年間の平均)

### (参考) 今後の発表予定日

第3号：令和8年6月10日(水曜日)

第4号：令和8年7月8日(水曜日)

第5号：令和8年7月22日(水曜日)

第6号：令和8年8月5日(水曜日)

第7号：令和8年9月9日(水曜日)

第8号：令和8年10月7日(水曜日)

第9号：令和8年11月11日(水曜日)

第10号：令和9年3月10日(水曜日)

### 【お問合せ先】

消費・安全局植物防疫課

代表：03-3502-8111(内線4562)

ダイヤルイン：03-3502-3382